

毎週日曜発行
2026 5/17

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

ニュース



クマの出没相次ぐ

先月、仙台市中心部にクマが現れ、大きな騒ぎになったね。昨年も多く出没が問題になったけど、宮城県や東北では10年、20年前に比べてクマが生息するエリアが広がっているようなんだ。でも、何でなんだろう？ 動物生態学を研究

する石巻専修大理工学部の辻大和教授(48)に話を聞いたよ。
(8面に関連記事)



「昨年の秋以降、人里や市街地でクマの目撃が相次いだのは、やはり山のドングリが少なかつたからだと思います」。辻教授はこう指摘し、季節によって変化するクマの食生活について教えてくれました。

本州に生息する「ツキノワグマ」は植物を好む雑食性の動物です。冬眠明けの春は若葉や草、夏はアリアヤベリー系の果実、秋はドングリなどを食べて過ごします。ドングリは脂肪分が豊富で、飲まず食わずの生活を送る冬眠を控えたクマにとって理想的な食べ物です。



東北森林管理局が毎年行うブナの開花状況の調査。仙台森林管理署の職員は「全体的に花が咲き、昨年より多くのブナの実を期待できそうです」と話しました。4月28日、宮城県丸森町

えさ不足で過疎の人里へ

とみられ、「食べ物に困って民家の近くまでやってきた可能性があまりあります」。

「ただ近年のクマの出没は、秋に限った話ではありません。本州に生息するクマの数は増加傾向にあり、クマの生活圏が森の中から少しずつ外に広がっていることも要因に挙げられるようです」。



辻教授は、人間社会の変化にも着目します。日本は人口減少が続いています。山の麓の農山村では過疎化が深刻な問題になり、荒れた農地も増えています。

こうした背景を考えると、食べ物を求めるクマが人里近くに出没しても不思議ではありません。

「山の奥りという自然現象と、数が増えているクマ側の問題。そして、クマを追い返す圧力が落ちていく人間側の問題が重なり、今のような騒ぎになっているのではないかと思います」と話します。

この日 何の日

◇17日(日) 生命・きずなの日
臓器提供者(ドナー)の善意で他人の生命を救う移植治療。ドナーの家族らが生命の大切さを考える日にしようと2002年に制定。5月は新緑の季節で、17日は「ド(10)ナー(7)」の語呂に合わせたんだ。

きょうの紙面

- 2面 世界へんてこ建物ツアー
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 人とクマの共生考え直す

きょうのテーマ

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ